

Eureka IV

六年制通信 No. 26 平成 28 年 11 月 26 日 (土) 号

クローン

地球上にはどのくらいの種が存在するか。これが実はよくわからないらしい。推定 1200 万種と言われているようですが、どうやって推定しているのでしょうか。そのうち現在確認されているのがおよそ 200 万種で、毎年 1 万 8 千種が発見されているのだそうです。新種ですね。私のお気に入り、コンドロクラディア・リラという海面生物です。カリフォルニア沖の海底 4000m あたりで発見されたのですが、非常にラブリーな姿をしています。リラは古代ギリシアのリュラという竖琴のことで、本当にそんな形をしています。皆さんも調べてごらんください。

新種が発見されている一方で、絶滅する種もいます。近い将来絶滅が予想されている種も多くあります。その絶滅種も、発見される新種の数とだいたい同じで、毎年およそ 1 万 8 千種くらいだそうですが、これは一日におよそ 50 種が消えているという計算ですね。しかし絶滅のスピードは今後加速していくという仮説もあります。私たち人類も進化の過程で、似たような種が絶滅していったのでしょうか。ネアンデルタール人とかクロマニヨン人とか、歴史の教科書に載っていますがね、環境に対応できなくなって絶滅したのでしょうか、実際にはどんなことが起こったのでしょうか。興味深いことです。

また、長い間絶滅したと信じられていた生物が見つかった、という話も聞きますね。シーラカンスが捕獲されたというニュースには興奮したことを覚えています。私がまだ子供の頃ですが、ひょっとしたらネッシー（知ってますかね）も本当にいるんじゃないかと、そんな話に盛り上がった記憶があります。

さて、北里大学の英語の入試問題に、絶滅したタスマニアン・タイガーのクローンを作る計画に関する文章が出たことがあります。「クローン」は古典ギリシア語だったんですね。知りませんでした。調べてみると **twig, spray, split** とありますから、恐らく「小さな細長い枝」のことでしょう。私たちはクローンを生物の複製という意味に解釈していますが、言葉の語源としてはピンときませんね。

植物では自然界でクローンを作るものもあるようですが、私たちがクローンという言葉を知ったのは羊のドリーでしょうね。1996 年にスコットランドのロスリン研究所で生まれた世界初の哺乳類の体細胞から作られたクローンでした。ドリーは 6 歳で亡くなりましたが、この実験は **opened an ethical can of worms** と、北里の英文には書いてあります。口語で **a can of worms** は「やっかいな問題」のことです。**can** は「缶」、**worm** は「ミミズやヒルなどの虫」、虫の入った缶を開けてしまう→面倒な

問題を引き起こす、となったのですね。ethical は「倫理上の」です。つまり、ドリーの存在を知った私たちは、これは人間のクローンが成功するのも時間の問題だと直感しました。当時の研究者たちはどのような見通しを持っていたのでしょうか。人を複製することの倫理上の是非をめぐる議論があったのを覚えています。現在は世界中の研究機関でこの研究は禁止されているはずですが、倫理上の問題というのは、つまり人間は Play God をしてはならない、という戒めです。「神の如くふるまう」ことを私たちは戒めているわけです。キリスト教のみならず、多くの宗教（とりわけ一神教）ではこのことに議論の余地はないでしょう。そう言えば、今思い出しましたが、アポロ 11 号が初めて人類を月に立たせましたね。1969 年のことです。あの時、確かニクソン大統領だったと思うのですが、アポロ計画の是非を教会に問うたはずですが、つまり、神が作った人間を人間の力で月に立たせることは、Play God にならないかと問うたと、私は何かで読みました。もし、あの時教会が認めなければ、アメリカは本気でアポロ計画を断念しただろうと言われていました。倫理とはそういう概念です。

実はドリーの誕生についても、Play God をしているとの批判があり、動物のクローン全てを禁止すべきだとの議論が出たのですね。そのとき、タスマニアン・タイガーを蘇らそうと計画していたオーストラリア博物館の館長マイケル・アーチャーはこう言いました。「人々は全てのタスマニアン・タイガーを殺すことすでに Play God をしたのだ。しかしクローン技術によってその過ちを正すことができる」と。さて、皆さんはどう思いますか。現実には非常に困難な技術らしく、いまだにタスマニアン・タイガーは復活していません。映画ジュラシックパークでは、琥珀に閉じ込められた蚊（が吸った恐竜の血液）から多くの古代生物を蘇らせましたが、まだまだこれは SF の世界に限られるようです。しかし、本当に実現可能となったとき、君たちは大きな倫理上の問題に直面するでしょう。

イギリス最高の文学賞をブッカー賞というのですが、カズオ・イシグロさんもこの賞を受賞しています。両親ともに日本人で、5 歳まで長崎に住んでいたそうです。もう今は日本語は話せません。少し前、この人の原作がドラマ化されました。「私を離さないで」（原題：Never let me go）ですが、皆さん観てましたかね。私は 15 年ほど前に翻訳を読みました。恩師の一人から英文が優れていると聞いていたので、原書も取り寄せましたが、こちらは読み通していません。お恥ずかしい。映画も観ましたよ。「アメイジング・スパイダーマン」に主演した男優さんが、主演しています。

とある全寮制の寄宿舎には健康な少年少女たちが暮らしている。物語は、そこを卒業した女性とその思い出を語るころから始まります。当時、彼らは自分たちが何者かを知らされていず…。あとは読んでみて下さい。面白いですよ。

人間の考える SF は、やがて実現すると言われていています。本当に科学技術の進歩はとどまるどころを知らず、なんででしょうね。君たちの時代には Play God をどう考えていくのでしょうか。私の恩師は、「人間にはたった一つのモイラ（運命のこと。女神の名から）が与えられており、それで満足すべきだ」と言われていました。科学技術の進歩を思うとき、私はいつもこの言葉を思い出しています。